

みやさぽ通信



VOL. 14

2026年9月6日

<http://miyasapo.org>

認定NPO法人 みやっこサポート

〒662-0034 西宮市西田町6-5

e-mail: nakashima-e@miyasapo.net



ホームページ



YOUTUBE



FACEBOOK



Instagram



午、駆ける年。次の10年へ

今年の1月4日、お陰様でみやっこサポートは、“法人設立10周年”を迎えることができました。10年前、NPO法人を立ち上げた背景には、私自身が長年、社会福祉の仕事に携わる中で見てきた現実があります。少子化・超高齢社会が進み、制度や社会も良い方向へ進んでいるとはいえ、まちには苦しみを抱えながら暮らす人たちがたくさんいました。「助け合えるまちを創らなければいけない」とNPO法人を立ち上げ、どの人も、苦しい時に「助けて」と言える友達を、一人でも多くつくってほしい。最初はそんな思いで教室やイベントを開催し、支援を届ける福祉情報サイト『ささえてネット』の構築と相談支援を始めました。



西田公園前に移した事務所兼地域交流スペースはすぐにこども達で一杯になり、そのドアを開けて入ってこられた木谷先生と始めた無料教室から、本格的なこども支援が始まりました。そこから、こども食堂、不登校のこども達の居場所づくりや学びへと活動は広がっていきました。

コロナ禍の休校中にはボランティアさんや、ダイハツ工業、金田運輸、新明和工業、フォーチュン、ぽこた、なごみの皆さんと協力して、家にこもるこども達に平日毎日お弁当を配達。その時から始まった食の支援は、サポートの必要な方への食品配布として今でも続いています。

昨年は能登の被災地支援へ。それは、大きな被害が予想される南海トラフ地震への取り組みでもありました。

どんな社会課題も、現場でしかわからない。まずは自分の目で、何が必要かを見極めて行動する。

この10年、ゆるぎないこの信念で、既存の制度やサービスだけでは十分に対応できない「今、地域に必要なこと」を、一つひとつ形にしてきました。

忍び寄っていた少子化・超高齢社会の歪みが、いよいよ私たちの暮らしの土台そのものを崩し始めている中、頼りにされているのがNPOの力です。

しかし、その活動を支える仕組みが日本にはなく、多くのNPOが、活動を続けるための資金調達に疲弊し、活動を継続する約束さえできない状況です。

それでも負けず、志を持ち、行動する人たちがたくさんいます。

その志と行動力が、これからの地域福祉を支え、社会を支える力になると信じます。

私たちは、これからの10年、そんな地域で頑張る人たちを支える仕組みをつくることで、その支援とつながる多くの人たちが、安心して暮らせる地域をつくっていきたいと考えています。

そして10月より、「新たな仕組みづくり」を実現するために、クラウドファンディングを実施します。次の10年も、たくさんの皆さんと力を合わせて、誰もが安心して暮らせる地域を創っていきたいと思います。どうか、これからのみやっこサポートにも、皆さんのご協力をお願い致します。

認定NPO法人みやっこサポート 理事長 中島 恵美



活動の報告

2025(R7)年1月1日～12月31日



こども支援

こども達の元気をとりもどす！

フリースペース IROHA

学校に行かない、行きたくない
こども達が楽しむ居場所

活動：月・水・金曜日 9:00～15:00

146日

のべ人数：こども 870名

ボランティア 61名



IROHAらば

学校に行かない、行きたくない
こども達の学び場

活動：火曜日 10:00～11:30

44日 12:15～13:45

内容：衣装作り、英会話、ギター
料理、ボードゲーム、数学

のべ人数：こども 190名

講師・スタッフ 147名



IROHAブランド

こども達と、この居場所を運営し
ていくために立ち上げたブランド

■IROHACURRYの販売

活動：第1木曜日 10回

のべ人数：こども32名 大人54名

455個販売



みやっこ食堂

こどもたちが、おなか一杯食べて、楽しく遊ぶ
こども食堂！

■ランチ

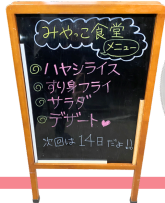
活動：月・水・金曜日 12:00～13:00 146回

のべ人数：こども 866名・大人 10名

■晩ご飯

活動：月2回 23回

のべ人数：こども 1,068名・大人 160名



みやっこ弁当

活動：火曜日 31回

弁当数：1,373個

家庭数：16軒



無料学習教室

こども達が楽しく
勉強する居場所は
休止中

IROHA・ラチェリアンのこども達が 参加したイベント

春遠足 in
甲山森林公園
4/16
ツリーイング



IROHA文化祭 4/27



夏遠足 in 甲山森林公園 8/27



秋遠足 in 淡路島

イングランドの丘 10/11



にしのみやこどもフェスタ2025 in 六湛寺公園 11/29



ラチェリアン放課後等デイサービス

活動：月～金曜日

平日 14:00～17:00

休校日11:00～17:00

232日

人数：こども 20名

のべ人数：こども 1,416名



交流支援

地域で
つながりを
つくる！

歌の教室&食堂
(シニアの集い場)

活動：月1回 木曜日

10:00～13:00

10回 のべ人数：43名



生活サポート

地域での生活を
サポートする！

食サポート
(フードパントリー)

第1火・水曜日

相談支援
(地域の相談窓口)

活動：随時

生活サポート
(家族代行サポート)

活動：随時

わたしたちの活動

「こどもの第3の居場所は何で必要なの？」②

学校に行き辛いこども達

日本の35万人以上のこども達が、西宮では1,250人以上のこども達が学校に行かずに、ほとんどの子どもが家にこもっている。

12号で、日本は10代のこどもの死因の第一位が「自殺」という深刻な問題を抱えていることを書きました。それと同じように、大きな社会問題となっているのが、増え続けている不登校のこども達のことです。

不登校について最初に関わったのは2018年、当法人主催の講演でした。当時、その深刻さをまだ理解していなかった私は、不登校経験のある親子のお話を、どこか他人事のように聞いていました。

その年、ご縁があり、不登校に関わる団体のネットワークづくりに参加。当時4団体で『にしのみや子どもと学びネットワーク』（現在26団体参加）

をつくり、11月には、教育委員会後援の講演会『不登校は人生の通り道』を開催。講演後の相談会で、「どうすれば良いかわからない」「どこにも居場所がない」という切実な親御さんの声を聞きました。

当時、西宮市には800人以上の不登校児童がいて、その多くが家で過ごしているという現実を知り、私はそこで初めて、この問題の深刻さを知り、「私たちにできることはないか」と考え、2019年7月25日、不登校のこどもの居場所『フリースペースIROHA』を始めました。

最初に来たのは一人の男の子でした。やりはじめても何をどうすれば良いのかわからない…その子の「卓球がしたい」の一言で、近くのスポーツ店へラケットとボールを買いに行き、テーブルを合わせて即席の卓球台をつくりました。それから一人また一人と増えていくこどもの声を聞き、一人ひとりの「したい」や「好き」を形にして、「しんどい」に向き合いながら、こども達が安心して過ごせる居場所をつくってきました。

そうやって、7年間で80人以上の不登校のこども達と関わってきました。

当時、西宮市にフリースクールのような居場所は3か所しかありませんでした。放課後等デイサービスが次々にできるなかで、このような居場所が増えない理由の一つは資金繰りの難しさです。私たちも補助金はなく、助成金は落ち、融資や、心ある方々のご寄付に支えていただけてきました。でも、資金は何度も底をつき、「もうここまでか」と頭を抱え、それでも「ここしか来ることのできないこども達の居場所を守らなければ」と何とか続けてきました。

IROHAで思いっきり遊び、元気を取り戻し、自分を取り戻していくこども達の姿が私たちの力になりました。

こども会議で自分たちの意見を出し、IROHAブランドが生まれ、オリジナルカレーを販売。

このように、こども達の成長と共に活動も進化し、学校へ行けるようになる子、IROHAに通いながらさまざまな経験を積んでいく子。それぞれが自分のペースで大きく成長していきました。

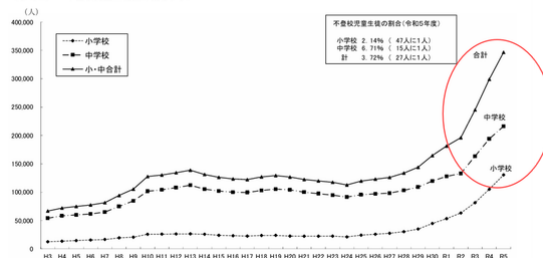
そして今、18歳になる子、18歳に近づく子も増えてきました。

これまで安心できる居場所と必要な学びや経験をつくってきましたが、これからは、さらに社会の中で生きていく力を育む活動へ、この活動も次のステージに入ります。

7年間、やってきたからこそ見えてきたこと、やってみなければわからなかったことがたくさんあります。

これからも、その経験と知見を活かし、社会にある問題に向き合っていきたいと思います。

<参考2> 不登校児童生徒数の推移グラフ



今年始める活動



ささえてネットのリニューアル決定！

■福祉情報サイト『ささえてネット』2027年の公開に向けて活動再開！

2019年に高齢者のサポート情報の一部を公開してから6年。

コロナ禍以降、諸事情によりストップしていたプロジェクトを、新たに「地域福祉を支える仕組み」として再始動します。この一步を、今年10月から開始するクラウドファンディングを通して一緒に応援していただければ幸いです。



聞きかじり西宮 西宮流 岡本 順子

連載第4回目【アニメ『涼宮ハルヒの憂鬱』の聖地】

西宮のウェブメディア「西宮流(にしのみやスタイル)」編集室から見てきた西宮のことを連載させていただきます。

今回は、これまでと内容がガラッと変わりますが、西宮市にはこんな一面もあります。

西宮は「火垂るの墓」などいくつかのアニメの聖地でもあります。その中でも、20年ファンの心を掴んで離さないアニメがあります。それが『涼宮ハルヒの憂鬱』という作品です。

西宮市出身（県立西宮北高校／関西学院大学卒）の谷川流さんが書かれた涼宮ハルヒシリーズ（『涼宮ハルヒの憂鬱』から『涼宮ハルヒの劇場』まで）は、これまで13巻発行されていますが、日本だけでなく世界15ヶ国語でも発行されていて、累計2000万部というすごい作品です。最初はライトノベルでしたが、今は角川文庫として文庫本のコーナーにも置かれています。作品の内容は、一言で言えば学園SF物語。涼宮ハルヒという女子高生が中心ですが、その同級生のキョンの一人称の形で物語が進んでいきます。この涼宮ハルヒっていう女の子が「本人に自覚がないけど、彼女の感情や思いが実は世界に大きな影響を与えている！」という設定で、彼女が作った『SOS団』という学内サークルのメンバーの中には、実は未来人やアンドロイドなどが居る・・・というSF要素も多く、筒井康隆氏をはじめとして文学的にも高い評価もされている作品です。2003年に始まったこの小説は2006年にアニメ化され「やっぱり西宮が舞台やん！！」ってことで、聖地巡礼が始まり、20年経った今も、海外からのファンも含めて多くの人が西宮を訪れてくれています。西宮の見知った風景がふんだんに出てきますので、邪道ですが西宮市民としては背景を見るだけでも非常に楽しい作品です。正確に言えば、20年前の作品ですので、20年前の西宮の風景が閉じ込められています。

そして、今年はそのアニメ放送から20周年ということで、実に様々なイベントが次々と企画されていますが、6月20日から3ヶ月間は、JR東海の『推し旅』とのコラボイベントも企画されました。

新幹線に乗って来られたファンが、西宮市内に設定されたスタンプラリーポイントなども回って楽しまれています。涼宮ハルヒ達が学ぶ高校が「北高」で、アニメでは県立西宮北高校の校舎がそのまま描写されています。

学校の最寄駅は光陽園駅（甲陽園駅）で、流れる川は「祝川」（夙川）です。そしてハルヒ達がよく集まるのは北口で、改修前の懐かしい西宮北口駅の駅前公園の時計台が出てきます。ご当地物の映画やアニメでは、公開直後には聖地巡礼者が増えますが、長く続きません。ただ、この涼宮ハルヒシリーズだけは、この20年間ずっと巡礼者が途切れない作品です。

作者の西宮市への暖かい思いと、ストーリーの面白さが常に新しいファンを獲得し続けているのだらうと思います。西宮って、こんなにすごい宝物も持っているんですね。



写真：西宮北口駅前公園の時計台

写真：兵庫県立西宮北高校

（2027年度からは県立苦楽園高校）